令和５年度

# 研　究　紀　要

秋田県立秋田北鷹高等学校

# 目　　次

令和５年度　先進校視察報告書
報告者　成田　基倫・富樫　渓太・・・２

令和５年度　教育委員会指導主事等学校訪問　要項・・・４
研究授業
・理科（化学基礎）　授業者　佐藤　政弘・・・・・・・・・５
・保健体育科（保健）　授業者　柴田　悦子・・・・・・・・・９
・英語科（英語コミュニケーションⅠ）　授業者　武石　崇子・・・・・・・・１２
・国語科（現代の国語）　授業者　鈴木　恵美・・・・・・・・１６

初任者研修　国語科　青山　竜也・・・・・・・・２１

中堅教諭等資質向上研修　数学科　石黒　翔之・・・・・・・・２５

# 令和5年度　先進校視察報告書

報告者　教諭　成田　基倫
教諭　富樫　渓太

2月27日　13:30～　学校法人尚志学園　尚志高等学校
＜1学年＞情報総合科　1クラス　　普通科（総合進学）　　10クラス　普通科（特別進学）　1クラス
＜2学年＞情報総合科　1クラス　　普通科（文系）　6クラス　　普通科（理系）　2クラス　　普通科（福祉）　1クラス
普通科（医療看護）　1クラス　　普通科（特別進学）　2クラス
＜3学年＞情報総合科　1クラス　　普通科（文系）　5クラス　　普通科（福祉）　1クラス　　普通科（理系）　2クラス
普通科（医療看護）　1クラス　　普通科（特別進学）　2クラス

全校生徒　1，271名　（男子599名、女子672名）

＜令和4年度 進路実績＞
国公立10名（福島大学（6）、新潟大学（1）、宇都宮大学（1）、都留文科大学（1）、長野大学（1））
私立大学185名、国公立短大3名、私立短大18名、看護専門17名、医療系専門11名、福祉系専門4名
各種専門70名、留学1名、高卒公務員6名

⑴　3年間の進路指導の流れについて
・進路先の割合（大学6割、専門学校3割、就職1割）
・大学進学者の割合（指定校5割、公募・総合型4割、一般1割）
＜全体の特徴＞
・多様な進路に対応している
・国公立私立ともに年内入試が主流。特進も年内入試の対策に注力
・指定校枠が非常に多く、生徒の希望とマッチできる可能性が高い。特に特進は探究活動を使った年内入試出願の指導が確立されつつある。
・年内入試の合格率が3～4割程度とまだまだ低いため、ここの精度を高めることが課題。
＜各学年での重点＞
1年部（目標：自己理解）・・・年度初めのガイダンス、適性診断（リクルート）、コース選択の補助、総探の補助運営（大学企業見学、進路学習等）
2年部（目標：自己啓発）・・・進路学習会（9月）、志望理由書添削（冬期休業中、マイナビ）、進路分析会、調査書等作成勉強会
3年部（目標：自己実現）・・・進路分析会／出願検討会、就職分析会、志望理由書講座（マイナビ）、推薦候補生および、就職希望者への特別指導

⑵　総合型選抜・学校推薦型選抜に向けた指導について
・年度初めに、昨年度の進学事業報告や今年度の進学援助事業計画などを記載している「進学対策父母の会総会資料」という冊子を配付しており、昨年度の指定校の一覧も冊子の中に全て掲載したり、年内入試に向けた取り組みを記載したりしている。模試に関しては、年内に予定している模試の一覧表を掲載し、年度初めに一括して集金する形をとっている。
・福島県内トップクラスの推薦枠がある指定校入試を学校案内にも掲載している。
・非常に多岐にわたる進路の希望に対応し、面談を繰り返し行うなどし、年内入試に向けた準備を進めている。

⑶　探究活動の成果を生かした進路指導について
生徒一人一人が、個人でテーマを決め、探究活動を行っている。それを、「志プロジェクト」という冊子にし、使用したスライドと探究活動全体の感想、後輩へのアドバイスなどを見開き1ページにして、まとめている。探究活動を行う際には、インターネットで調べたことを羅列するのではなく、しっかりと自分で考え実験し、それをまとめるということを意識させている。また、情報総合科では、自分の探究に「該当する SDGs」という欄を設け、自分の探究と SDGs の関係についても考えている。発表の際は、ipad を用いて身振り手振りを交えながらプレゼンテーションを行っていて、相手に伝える能力も同時に向上させている。

⑷ その他
生徒は全員が自分の ipad を持っていた。校内には黒板がなく、ホワイトボードと ipad で授業を行っていた。ipad には、学校で制限をかけており、授業に必要の無いサイト等へはアクセスできないようにしている。総探の発表では、活発に意見交換をしていた。
2月28日　10:00～　福島県立須賀川桐陽高等学校
・普通科5クラス、数理科学科1クラス、計6クラス
・令和4年度の国公立大学実績：普通科35名、数理科学科8名、計44名

○3年間の進路指導の流れについて
1学年目標：職業人講話や出前講座を通して、職業や学問を知る（視野を広げる）
・今年度の職業人講話はソフトバンク株式会社CSR本部から1名を招いて実施
・大学出前講座は8講座を2回予定
・「先輩に聞く」ガイダンス（総合型・学校推薦型で合格した先輩8名から話を聞く）
今年度は1月20日実施。本校と異なる点は、発表させる生徒にあらかじめレジュメを作成させ、発表の練習指導（リハーサル）を行っている点。さらに、先輩が受験に向けて作成してきたノート等も当日持参させ、発表後には後輩が自由に各先輩に質問できる時間(使用したノートを閲覧できる時間)を設けている。
・代々木ゼミナール講師による共通テスト対策演習

2学年目標：視野を広げつつ徐々に進路決定（各種ガイダンスを通して入試のしくみを知る）
・公務員ガイダンス
・医療系進路ガイダンス（国際医療福祉大学より1名招いて実施）
・「先輩に聞く」ガイダンス　・共通テスト対策講座（英語・数学）

3学年目標：学力をつける（進路別のガイダンスや対策講座を通して進路実現を図る）
・専門学校ガイダンス　・公務員対策講座（全5回）　・部活動引退者ガイダンス
・サマーセミナー（国語・数学・英語）※駿台予備校講師による共通テスト実践演習
・共通テスト出願説明会　・推薦出願者全体指導　・出願分析会（12月）
・共通テスト直前指導　・出願検討会（1月）

○新課程入試に向けた取り組みについて
・情報Ⅰへの対応については、長期休業中に課外で対応予定

○総合型選抜・学校推薦型選抜に向けた指導について
・小論文講演会
・志望理由書の書き方講座実施（学年主導）　※2年生は2月に実施
・大学、短大、看護系の一部専門学校、公募推薦と総合型（国公立）については、全教員で面接、小論文指導に当たっている。指導の割り振りは本校と同様に教科主任からお願いする形式
・図書館との連携
司書の先生の協力を得て、右のような付箋を図書館の書籍に貼り、推薦関係の書籍を全校生徒に紹介する取り組みを実施している。

出ました！
・大阪教育大（教育心理学）２０１９
・北九州市立大（地域創生学群）２０２０

・事務室との連携
事務長をはじめとする県職員の方にも公務員指導の面接に入ってもらっている。

○探究学習の成果を生かした進路指導について
・総合的な探究の時間の活動の中に、意図的に進路学習の内容を組み込んでいる。
特に、1年次の課題研究は、大学で研究したいことに取り組むようにさせている。

○その他
・働き方改革ということで、福島県では、先週(2／28現在)30単位で教育課程を組むよう通知があり。

| 時 | 評価規準 | | | | 学習活動 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 関心･意欲･態度 | 思考・判断・表現 | 観察・実験の技能 | 知識・理解 | |
| 1 | | | | 各金属イオンの特徴的な定性反応を理解している。 | ○無機物の性質のまとめとして、特徴的な定性反応を学習する。 |
| 2 | | 各金属イオンの特徴的な定性反応を実験を通じて確認できる。 | | | ○実験を通じて、各金属イオンの特徴的な定性反応を実験を通じて確認する。 |
| 3<br>本時 | 実験に前向きに取り組んでいる。 | | 実験で得られた結果を、学習した知識と結びつけることができる。 | | ○応用として、身近な水溶液の分析を行う。 |

6　本時の計画

(1) 本時の目標

学習した各金属イオンの特徴的な定性反応を基に、自然界の水溶液に含まれるイオンの分析ができる。

(2) 学習活動と評価

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---|---|---|---|
| 導入　５分 | 本時の流れを確認する。 | | |
| | 実験結果とデータとの比較により、水溶液を分析できる | | |
| 展開①<br>５分 | 各班毎に役割分担を行い、実験手順を確認する。 | ・試薬の取り扱いの注意を行う。<br>・実験の実施の仕方、器具の取り扱いについて説明する。 | ① |
| 展開②<br>３０分 | 水溶液①、②、③について、各定性分析を行う。 | ・協力して実験を実施させる。<br>・実験結果をその都度、記録させる。 | ①<br>③ |
| 展開③<br>１０分 | 実験結果から、データとの比較によって、水溶液の判別を行う。 | ・各班ごとに、協力して検討させる。 | |
| まとめ<br>５分 | 本時の内容を振り返る。 | ・身近な水溶液の意識の仕方について考えさせる。 | |

# 令 和 5 年 度 教 育 委 員 会 指 導 主 事 等 学 校 訪 問 要 項

教務部

1　重点指導事項

（1）組織で取り組む魅力ある授業づくりの推進

・ねらいに基づいた授業構成
・生徒の思考を深める授業展開
・評価と検証を生かした授業改善

（2）「こころ　姿　振る舞い　さわやか高校生運動」の推進による生徒指導の充実

・さわやかな整容
・さわやかな生活態度
・さわやかな学習環境

2　訪問日（2回目）

令和5年10月19日（木）

3　訪問者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 高校教育課指導チーム | 指 導 主 事 | 山　城　　崇 | 教科：理　　科 |
| 高校教育課英語教育推進チーム | 指 導 主 事 | 高　橋　輝　亨 | 教科：英　　語 |
| 保健体育課学校体育・部活動チーム | 指 導 主 事 | 佐　藤　幸　彦 | 教科：保健体育 |
| 秋田高等学校 | 教育専門監 | 佐々木　繁　樹 | 教科：国　　語 |

4　授業改善重点事項

学習内容を正確に理解し、思考を広げ深化する力の育成を目指す。

手立て

・想像や理解しづらい内容について、ICTをはじめ教材を効果的に活用させる。
・正確に聞き取るため、発問を工夫する。
・授業の流れを提示する。

5　日程

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9:55～10:45 | 2校時 | 表簿閲覧指導 | 会議室（後） |
| 10:55～11:45 | 3校時 | 校長面談 | 校長室 |
| 11:55～12:45 | 4校時 | 授業参観 | （木曜日3校時の科目） |
| 13:20～14:10 | 5校時 | 研究授業 | |
| 14:25～15:10 | | 授業研修会 | |
| 15:25～16:00 | | 全体会 | 会議室（前） |

6　研究授業

| 教　　科 | 理　科 | 英　語 | 保健体育 | 国　語 |
|---|---|---|---|---|
| 科　　目 | 化　学 | 英語コミュニケーションⅠ | 保　健 | 現代の国語 |
| 授業クラス | 3A（理系） | 1A | 1NR | 1B |
| 場　　所 | 化学実験室 | 1A | 会議室 | 1B |
| 授　業　者 | 佐藤政弘 | 武石崇子 | 柴田悦子 | 鈴木恵美 |

7　授業研修会

| 教　　科 | 理　科 | 英　語 | 保健体育 | 国　語 |
|---|---|---|---|---|
| 指導助言者 | 山城　崇指導主事 | 高橋輝亨指導主事 | 佐藤幸彦指導主事 | 佐々木繁樹教育専門監 |
| 会　　場 | 2A | 2B | 2C | 2D |
| 進　　行 | 菊地生馬 | 加賀素子 | 古矢勝久 | 浅野　聡 |
| 記　　録 | 富樫渓太 | 中嶋隆輝 | 舘山　孝 | 須藤規子 |
| クラスルーム活用 | 富樫渓太 | 小笠原與 | 伊藤　健（今畠康子） | 青山竜也 |
| 全体会発表 | 富樫渓太 | 中嶋隆輝 | 舘山　孝 | 須藤規子 |

# 理科（化学）学習指導案

授業者　佐藤政弘
日　時　令和５年１０月１９日（木）５校時
場　所　化学実験室
教科書　改訂　化学（東京書籍）

1　単元名　　無機物質

2　単元目標　　無機物質の性質や反応を探究し，元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに，日常生活や社会と関連づけて考察できる。

3　生徒と単元

３年Ａ組は、男子 10 名、女子 13 名の特別進学クラス理系である。大学進学希望者が多いクラスであるが、化学を試験科目として使わない生徒も多い。

実験に興味・関心をもって取り組む生徒たちであり、学習内容が多い中で実験や演示実験を工夫したいと考えつつ授業を実施している。

4　単元の評価規準

| ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③観察・実験の技能 | ④知識・理解 |
|---|---|---|---|
| 無機物質に関する事物・現象について関心や探究心をもち，意欲的にそれらの理解や探究に取り組むとともに，科学的な自然観を身に付けている。 | 無機物質に関する事物・現象の中に問題を見いだし，観察，実験などを通じて，事実を分析的・総合的に捉え，実証的，論理的に考察して問題を解決し，科学的に判断できる。また，得られた結果を的確に表現できる。 | 観察，実験の技能を習得するとともに，無機物質に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け，それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 | 観察，実験などを通して，無機物質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。 |

5　指導と評価の計画

無機物質に関する探究活動（３時間）
１～２時間目　無機物の性質と定性反応を理解する。
３時間目　　学習した知識を基に、自然界の水溶液を分析する。（本時）

# 保健体育科「保健」学習指導案

授　業　者：柴田悦子
実　施　日：令和５年１０月１９日（木）５校時
場　　所：会議室
教　科　書：現代高等保健体育（大修館書店）

１　単元名　　１０　飲酒と健康

２　単元目標

（１）飲酒と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して飲酒は生活習慣病などの要因になること、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解することができるようにする。（知識）

（２）飲酒と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それを表現することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）

（３）飲酒と健康について、自他や社会の課題の解決方法及び適切な活用方法の選択に向けての話し合いや意見の交換などに主体的に取り組むことができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

３　生徒と単元

１年生物資源科（Ｎ組）２８名（男子１６名・女子１２名）１年緑地環境科（Ｒ組）２９名（男子２８名・女子１名）の合同授業である。授業中は積極的に発言する生徒も多く、グループ活動などでは主体的に取り組むことができる。飲酒については社会的寛容度が高く、未成年者でも飲酒経験が３０％以上と高い傾向にある。そのため、タブレットＰＣを活用してグループごとに「未成年者の飲酒が及ぼす健康影響」という共通のテーマのもと、課題学習を行い、発表までの一連の学習活動を通じて、未成年者の飲酒が及ぼす健康影響や健全な健康観と飲酒防止のための実践力の育成につなげたい。

４　単元の評価規準

| ①　知識・技能 | ②　思考・判断・表現 | ③　主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 飲酒は生活習慣病などの要因となり、心身の健康を損ねることにつて、理解したことを言ったり書いたりしている。<br>飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、言ったり書いたりしている。 | 飲酒と健康について、個人的及び社会生活と関連付け、自他や社会の課題を発見しているとともに、その解決方法を整理している。 | 飲酒と健康について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。 |

指導および助言

【授業アンケート】12 名の回答
Q：授業の流れはわかるようになっていましたか？
はい･･･100％

Q：ICT をはじめ教材を効果的に活用していましたか？
はい･･･66.7％　　いいえ･･･33.3％

Q：正確に聞き取るための発問を工夫していましたか？
はい･･･75％　　いいえ･･･25％

Q：グループ活動は生徒の思考を広げ、深める手助けとなりましたか？
はい･･･100％

Q：その他、授業に関してのご感想を自由に記述してください。
・グループで実験することにより、生徒同士の会話が生まれ、理解を深め合う姿が見れたので良かったと思います。

・温泉を源泉まで採取しに行き教材を用意されていたので、準備にはなかなか苦労されたのではないかと思う。

・興味を引く実験であった。

・「温泉」という、非常に身近な話題について扱っていて、生徒が主体的に活動していたように感じた。また、授業のはじめに実験の注意事項等の一連の流れを説明していて、授業の流れがわかりやすかった。まとめでは、黒板に実験結果を板書することで、他の班と共有できていて、良いと感じた。全体を通して、非常に興味深い内容で、自分の授業でも参考にさせていただきたいと感じた。

・最後の（解答）まとめまでの流れがスムーズで、生徒たちは実験内容をよく理解し、存在するイオンの検出に意欲的に取り組んでいた。解答を出すのに苦労する班もあったが、思考を広げ深化する力の育成につながっていた。

・前時授業内容を活用させ、水溶液に含まれている物質を試薬を使って導き出し、その成分を源泉成分表から判断してどこのものか判断することで、生徒の興味を引き出している。生徒の操作を机間巡視で確認し、的確なアドバイスをしている。

・生徒たちは班員と協力しながら、とても真剣に取り組んでいたと感じた。今回温泉を題材にした実験にとても興味があった。佐藤先生の指導力にベテランらしさを感じた。ありがとうございました。

・ICT の効果的活用に関しては、常設のスクリーンが教室内に無いため、成分表等の資料の提示が 40inc のスクリーンのみで小さかった。また、実験という内容のため Chromebook 等の活用は難しいと感じた。発問に関しては、実験自体が生徒に対する授業内での発問のような内容のため、常時、生徒が考えながら、疑問を解決するために実験で理解を深める努力をしており、この点は発問と捉えてもいいのではないかと感じた。授業の流れに関しては、黒板や配付資料に従って実験を行う流れが記載されており、生徒も不安なく実験に取り組んでいたと感じた。あれだけの内容を、ほぼ時間通りに実施できた点は、授業の準備の素晴らしさと感じた。全体を通じて、教師側が生徒に的確に指示を出し、生徒にも動きがある中でメリハリや動きのある授業であったと感じた。

・生徒は実験のポイントや試薬の取り扱いなど説明を聞いていて、内容を理解して実験に入っていた。温泉水を各試薬を用いてイオンを検出するのに予想通りに差が出て、モニターにパソコンをつなげて活用していた。

・温泉という身近なものを取り上げ、分析しているところに感心した。板書は学習目標や注意事項、授業の流れが的確に書かれており分かりやすかった。実験に望む生徒が生き生きと協力しながら実験している姿に感動した。実験であるのに、机の整理や試薬等も整然ときれいに使われており感心した。

# 英語科「英語コミュニケーションⅠ」学習指導案

授 業 者　秋田北鷹高等学校　武石　崇子
Gabriel Tasma
実 施 日　令和５年１０月１９日（木）５校時
場　　所　１年Ａ組教室
教 科 書　ENRICH LEARNING
English Communication　Ⅰ（東京書籍）

1　単元名　Unit 4 What can we learn from native Hawaiians?

2　単元の目標
（１）ハワイ語やハワイ文化の歴史について理解する。
（２）自分にとって大切な言葉や文化について、英語のスピーチで伝えることができる。

3　単元と CAN－DO 形式での学習到達目標との関連
興味のある事柄について、自分の意見を話すことができる。【話すこと（発表)】

4　単元観
博物館のパンフレットなどを通して、ハワイ語やハワイの歴史について学ぶという内容である。身のまわりで失われつつある言葉や文化に注目し、改めてその良さや自分の考えをまとめ、発表する機会としたい。

5　生徒観
男子 10 名、女子 26 名、計 36 名の普通科クラスである。国公立大学への進学を希望している生徒が多く、英語学習の必要性を十分に感じている。そのため、苦手意識はありながらも、ペア活動やグループ活動に意欲的に取り組む生徒が多い。英語でのやりとりや発表に慣れていないため、語彙不足や自信のなさから積極的に発言できない生徒もいるが、全体的には間違いを恐れず発表したり、それを受け入れたりする雰囲気を持っている。

6　単元計画
１時間目　Warm up, Listening1
２時間目　Reading1　内容理解(前半)
３時間目　Reading1　内容理解（後半）
４時間目　Reading1　まとめ（本時）
５時間目　Grammar,Listening2
６時間目　Reading2　内容理解
７時間目　Unit Activity　導入と原稿作成
８時間目　Unit Activity　スピーチ

7　単元の評価規準

| ①　知識・技能 | ②　思考・判断・表現 | ③　主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 現在完了の受け身、過去完了を用いた文の形・意味・用法を理解している。<br>身のまわりの言葉や文化に関する話題について、事実や意見を分けたり、ポイントを絞ったりしながら伝える技能を身につけている。 | 身のまわりの言葉や文化に関して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを相手にわかりやすく伝えている。 | 学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝えている。 |

8　本時の学習

（1）ねらい

本 Unit の最後の活動（Unit Activity）につながる活動とする。ハワイ語がどのような歴史をたどってきたのかをわかりやすく説明するため、必要な情報をパンフレットから素早く読み取り、その場でまとめ発表する。【読むこと】

（2）学習過程

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5分） | ・ペアを組んで本文に出てきた単語をお互いに英語で説明する。 | ・限られた時間の中で、文で説明するように促す。 | |
| | パンフレットから必要な情報を読み取り、その場でまとめ発表する。<br>Subtitle:ハワイ語はどのような歴史をたどってきたのだろう | | |
| 展開<br>(43分) | ・４人グループを作り、ハワイ語の歴史についての質問に答える。 | ・グループ内で役割を交代させる。 | ② |
| | ・必要な情報を読み取り Retelling 原稿を作成し、ペアで発表し合う。(その１) | ・読み取った内容について、自分が学んだことや意見も書くように伝える。<br>・時間になったら途中であっても発表させる。 | |
| | ・(その１)で作成した Retelling 原稿に修正を加え、ペアで発表し合う。(その２) | ・不足している情報や、相手の発表の良かった点などを取り入れるよう伝える。 | |
| | ・最終原稿を完成させ、ペアで発表し合う。その後、全体でも発表する。 | ・できるだけ原稿を見ずに発表するよう伝える。 | |
| まとめ<br>(2分) | ・授業への態度や内容の理解度を自己評価する。 | ・本時の活動を振り返らせる。 | |

5　本時の計画

（1）本時の目標　　未成年者の飲酒が及ぼす健康影響から健全な価値観と飲酒防止の対策について理解できるようにする。

（2）学習活動と評価

| 展開 | 学　習　活　動 | 指導上の留意点 | 評　　価 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ・本時の目標、授業の流れについて説明する。<br>学習課題:「未成年者の飲酒が及ぼす健康影響には、どのようなことがあるだろうか。」 | ・本時の目標を掲示する。 | |
| 展開<br>40分 | ・課題学習<br>本時のテーマについてタブレットＰＣを使いグループで調べる。<br>・前時のアルコールパッチテストの結果を元に、グループ別何班かに発表させる。<br>（各班3分）<br>・各グループの発表した内容について質疑する。 | ・４人～５人のグループを作り、グループの内２人のタブレットＰＣを使い調べさせる。<br>・役割を分担して各グループ別にまとめ、発表させる。<br>・自分たちのグループで不足している内容をメモさせるように助言する。 | ・他のグループの発表を興味を持って聞いている。【②】（観察）<br>・グループ内で役割分担をし、課題についてまとめ、発表している。【②】<br>（観察、ワーク） |
| 整理<br>5分 | ・感想シートの記入（評価、感想）<br>・未成年の飲酒はなぜいけないのか確認する。 | ・感想シートを使い、評価と感想を書くことができるように確認させる。<br>・未成年の飲酒は、様々な影響があることを理解できるように確認させる。 | ・飲酒による健康影響やその防止についてまとめている。【②】<br>（観察） |

・目標と本時の流れが常に確認できるようになっていたので、生徒は見通しを持って授業に参加できたと思う。また、ICT を効果的に活用しており、授業のテンポがとてもよかった。グループ学習ではポイント制にしていることで、グループ全員が一丸となって活動に取り組み、生徒一人ひとりが主体的に参加しているように感じた。

・授業改善重点事項とその手立てに基づき授業が実践されていた。生徒はグループでも個人でも与えられた課題に対して意欲的に取り組んでいた。英語の内容理解だけでなくお互いのやりとりにも積極的であった。聞く、読む、話す、書くという 4 技能が取り入れられた授業であった。

・流れの提示が視覚的にわかりやすい。生徒への指示が明確。ICT の活用も、視覚的にわかりやすく、効果的に活用されていた。Retelling 活動は、教科書を見て要約する活動だったと思うが、教科書を見ながらよりも、黒板に keyword を示して、Retelling させる形だともう少し思考力を深める活動になったのではないかと思いました。

・授業の初めの英語で説明することや Q&A が、スピーチに繋がっていた授業でした。Q&A はゲーム形式で楽しそうでした。タブレットをうまく活用すればクイズ番組みたいにできるかも。プリントは付け足した内容がわかるといいのかなと思いました。相手にわかりやすく伝えることができるのかがポイントでしたので、ペアから評価してもらう項目があってもいいのかなと思いました。大変活発な授業で自分もこういう授業受けたかったなあと感じました。授業ありがとうございました。

指導および助言

【授業アンケート】7 名の回答
Q：授業の流れはわかるようになっていましたか？
はい･･･100％

Q：ICT をはじめ教材を効果的に活用していましたか？
はい･･･100％

Q：正確に聞き取るための発問を工夫していましたか？
はい･･･66.7％　　いいえ･･･33.3％

Q：グループ活動は生徒の思考を広げ、深める手助けとなりましたか？
はい･･･100％

Q：その他、授業に関してのご感想を自由に記述してください。
・発表時には全員がきちんと聞いている姿があった。最後の班は具体的で内容もよかった。

・「課題」という言葉で生徒の思考が広がり意欲につながったと思います。

・クラスの学力を考えると、生徒の能力をよく引き出していると思いました。

指導および助言

【授業アンケート】9 名の回答
Q：授業の流れはわかるようになっていましたか？
はい･･･88.9%　　いいえ･･･11.1%

Q：ICT をはじめ教材を効果的に活用していましたか？
はい･･･100%

Q：正確に聞き取るための発問を工夫していましたか？
はい･･･100%

Q：グループ活動は生徒の思考を広げ、深める手助けとなりましたか？
はい･･･100%

Q：その他、授業に関してのご感想を自由に記述してください。
・授業の流れは私が見落としていただけで、提示されていたかもしれません。生徒たちが楽しそうに活動をどんどんすすめていていいなぁと思いました。

・正確に聞き取るための発問として、テンポの良い発問を行っていた。大事なところはゆっくり、繰り返しということでなくてもよいと感じた。

・ICT を活用し、目標が明示されていた。今、何を学習しているかが黒板に目印で示されており生徒にとってわかりやすかった。書くことをやめさせるために、立たせることは効果的だと感じた。グループで紙に答えを書いて発表するシーンのテンポの良さが思考の速さに繋がっていると感じた。お疲れ様でした。

・メリハリがあり、大変素晴らしい授業でした。今後の参考にさせて頂きます。お疲れ様でした。

・導入の活動はぜひ取り入れたいです。自分の授業より個人でじっくり考えて取り込む活動が多めで、さすが A 組と思いました。個人活動の後にはペアで output もし合っていて、お互いの良い刺激になっていました。Retelling の仕上げとして memorize させるというのはハードルが高いけれど、やりがいのある課題だと思いました。もっとぐっと難易度を下げて自分の授業でも挑戦させたいです。

# 国語科「現代の国語」学習指導案

授　業　者：鈴木　恵美
実　施　日：令和５年１０月１９日（木）５校時
場　　所：１年Ｂ組教室
教　科　書：「現代の国語」（第一学習社）

**１　単元名**　　表現の仕方を工夫する（芥川龍之介『羅生門』）

**２　単元目標**

・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（知識及び技能【（１）言葉の特徴や使い方に関する事項】）
・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。（思考力・判断力・表現力等【Ｂ書くこと（１）ウ】）
・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫しようとすること。（主体的に学習に取り組む姿勢）

**３　生徒と単元**

３４名（男子１６名・女子１８名）が在籍する普通科のクラスである。文章を読んで理解したことや感じ取ったことを、言語化・文章化することに消極的なことが課題である。まず言語化・文章化の力を高めるために、教材をじっくりと読み要旨や要点を把握して、論点を明確に設定することに取り組ませたい。次に要旨や要点を把握し読みを深めるための手立てとして、文章の展開に着目することを意識させたい。またペア学習等の学び合いの場を設け、他者から新しい視点を得たり、自己の考えを深めたりすることで、表現することへの自信を持たせたい。

この教材を通して「生活や人生について考えを深め、人間性を豊かにし、たくましく生きる意志を培う」ことを目指す。生徒自身とは文化的背景の異なる文章を読み、登場人物という他者の思考に寄り添うことで、実生活でも必要な思慮深さを培う機会としたい。登場人物の行動の起因となる心情、心情の起因となる出来事をていねいに整理することで、自分の考えや思いを文章化し伝え合う能力を育成することを目指す。

**４　単元の評価基準**

| ①知識及び技能 | ②思考力・判断力・表現力等（書くこと） | ③主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・わかりにくい語句を書き留め、脚注や辞書で調べて理解している。<br>・発問の主意を理解し、語彙力を高めようとする努力の跡が認められる。 | ・本文の記述に基づいて下人の心理が刻々と変化していく様子を把握し、下人がどのような心理状態にあったのかが的確に伝わるように、表現に工夫しながらまとめている。 | ・本文の記述に基づいて下人の心理が刻々と変化していく様子を把握し、下人がどのような心理状態にあったのかが的確に伝わるように、表現に工夫しながらまとめようとしている。<br>・学習のふりかえりに主体的に取り組んでいる。 |

## 5　本時の計画

（1）本時の目標

下人が「この老婆に対する激しい憎悪」を感じた理由について表現の仕方を工夫して書くことができる。

（2）学習活動と評価

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5分） | ・本時の目標を確認する。<br>下人が「この老婆に対する激しい憎悪」を感じた理由を考える。<br>・「激しい憎悪」を言い換えた本文中の表現を挙げる。<br>【言い換えの表現】<br>あらゆる悪に対する反感<br>悪を憎む心<br>許すべからざる悪 | ・板書は取らせないで、考えることに絞って活動させる。<br>・この中から「許すべからざる悪」を含む一文に着目して、理由を考えることを提示し、ワークシート２枚を配付する。<br>・本時の学習活動の予定を、提出用ワークシートの「ふりかえり」に示していることを説明する。 | |
| 展開<br>（40分） | ・「許すべからざる悪」を含む一文と似た表現を含む一文を比較し、下人に起こった出来事を確認し、下人の感じた憎悪の理由を考える。<br>・下人に起こった出来事を踏まえて、下人の感じた憎悪の理由を考える。<br>【出来事】<br>Ａ：「誰か」は人間で老婆だった<br>Ｂ：老婆は死人の髪を抜いていた<br>・下人が「老婆に対する憎悪」を感じた理由を考え、表現の仕方を工夫して書く。 | ・活動用ワークシートを活用させて、下人の感じた憎悪の理由を考えるよう促す。<br>・生徒同士で考えを話し合う時間を設けて、考えをまとめさせた後に、提出用ワークシートに自分の考えを文章で記入させる。 | ②【提出用ワークシート】 |
| まとめ<br>（5分） | ・本時の学習を振り返る。 | ・提出用ワークシートにふりかえりを記入する。 | ③【提出用ワークシート・ふりかえり】 |

組　　番　氏名

# 芥川龍之介『羅生門』（活動用ワークシート）

下人が「この老婆に対する激しい憎悪」を感じた理由を考えよう。

【第二段落】P34L6
この雨の夜に、この羅生門の上で、
死人の髪の毛を抜くということが、それだけですでに許すべからざる悪であった。

比較！！

【第二段落】P　　L
この雨の夜に、この羅生門の上で、

《下人が新しく認識した出来事》
（A）火をともしている者が　　で、（B）死人の髪を抜いている。

老婆はどんな人？

もし死人の髪を抜いているのが

《参考》P36L3老婆の答えが存外、平凡なのに失望した。

※「この雨の夜に、この羅生門の上で」と語り手が繰り返す意図は？
門に死体が棄てられ、都の人々が日暮れ以降近づかない場所に何者かがいることに対する、下人の驚きと恐れが含まれた表現。

下人にとって雨の夜の羅生門は、普通の人間がいてはならない場所だから。

組　　番　氏名

# 芥川龍之介『羅生門』（提出用ワークシート）

下人が「この老婆に対する激しい憎悪」を感じた理由を考えよう。

※（B）の出来事に重点をおいて、下人の心情を考えると…

※（A）の出来事に重点をおいて、下人の心情を考えると…

《ふりかえり》

| | |
|---|---|
| 似た文章を比較することで、考えるヒントを見つけることができた | A・B・C |
| 下人に起こった出来事をふまえて、理由を考えることができた | A・B・C |
| 下人が「老婆を」憎悪した理由を、2つの観点から考えることができた | A・B・C |

感想・考察等を自由に書いてください

## 初任者研修を終えて

教諭　青山　竜也

### 1.　はじめに

４月に初めてこの秋田北鷹高等学校の教壇に立ち、まもなく一年が経とうとしている。教師としても、社会人としても一年目だった私にとっては、右も左も分からない状態で、日々の生活を送っていた。そのような中でも、校内外の研修に参加し、教育公務員としての心構えや、学習指導、生徒指導にかかわる基本的事項を学んだ。ここで、主な初任者研修に関する概要や感想を記し、報告する。

### 2.　校内研修について

一般研修では、校長先生をはじめ、教頭先生、各分掌主任の先生方など、多くの先生方からご指導をいただいた。危機管理体制や服務規程など、学校の組織や自己管理に関する項目や、本校の特色や教育目標、教育課程についての項目、また進路指導やキャリア教育、情報教育に関する項目など、幅広い分野について学んだ。教員としての経験が全くなかったため、常に新鮮な気持ちで研修に臨んだ。様々な分掌での研修でも、全体に共通して、教職員同士のコミュニケーションが重要であることを学んだ。生徒とのかかわりのみに終始するのではなく、その過程や課題を共有し、一人で抱え込まないことが肝要である。教員の働き方改革が叫ばれている中、教員としての責任を果たしながら、どのように職務を遂行していくかを常に考え、自分自身をアップデートしていかなければならないと感じた。

教科研修では、指導教員の高木教頭を中心に、国語科の先生方に大変お世話になった。授業見学を快諾していただき、また私の研究授業にも多くの先生方が足を運んでくださり、多くのご意見をいただいた。学習指導案の作成や、授業の導入、展開など、国語を教えるにあたっての基礎的事項を学ぶことができた。また、他教科の先生方からも、ICTを活用した授業の工夫などをご指導いただいた。今後も国語という枠組みを超えて、様々なことに挑戦していきたい。

### 3.　校外研修

総合教育センター主催の研修は、全 10 回実施された。教育公務員としての服務や、いじめの未然防止、カウンセリングの手法など生徒指導に関する基本的な項目をはじめ、授業づくりの基本や教科における評価などを学んだ。演習では、他の初任者研修の先生方と話し合いを行う中で、学校の特色の違いに驚き、異なる視点からの考え方に新たな気付きを得るなど、普段の職場では経験できないような刺激を受けた。

指導および助言

【授業アンケート】8 名の回答
Q：授業の流れはわかるようになっていましたか？
はい･･･100％

Q：ICT をはじめ教材を効果的に活用していましたか？
はい･･･62.5％　　いいえ･･･37.5％

Q：正確に聞き取るための発問を工夫していましたか？
はい･･･87.5％　　いいえ･･･12.5％

Q：グループ活動は生徒の思考を広げ、深める手助けとなりましたか？
はい･･･87.5％　　いいえ･･･12.5％

Q：その他、授業に関してのご感想を自由に記述してください。
・研究授業お疲れ様でした。文章内の言葉に着目している点、2 種類のワークシートが準備されていた点、生徒の教え合いが活発であった点が良かったと思います。

・机間巡視して、生徒の言葉をくみ取って、解答できるよう配慮している。

・生徒への指示が明確であり、生徒が発言しやすい雰囲気であったと思います。周りの人と話し合うことで、生徒の考えが整理されたり、視点を変えた考え方ができたりしていたように見えました。文学作品への「現代の国語」としてのアプローチの仕方は、私自身も悩むところで難しいと感じました。今日の授業、お疲れ様でした。

・ICT をどうやったら効果的に使用できるか地歴公民科の視点で考えてみた。平安時代末期の末法思想を動画や漫画などで提示できたらもっとイメージが広がったかも知れない。

・提出用ワークシートを書く前に少しでも話し合いして、ある程度内容を固めたあとで書くことを行っても良かったのではないかと思いました。全く書き出すことができなかった生徒も多かったので、そもそも何を考えるべきか、何を書くべきかを理解してからでも･･････。

・授業お疲れ様でした。

また、特別支援学校訪での授業見学や、中学校の初任者と合同での授業研修など、校種を越えて様々なことを幅広く学ぶことができた。

今年度の国語科での初任者研修では、私を含め 3 名の初任者で協力しながら授業研修などに取り組んだ。これまでの授業の経験や、過去の試みなどを聞いて、授業実践に対する意欲がさらに高まった。また、互いの授業をカメラで撮影し、意見を交換することで、交流を深め、お互いのスキルアップにつなげていくことができた。今後もこの繋がりを大切にしながら、切磋琢磨していきたい。

高校教育課主催の研修は、全 4 回行われた。ここでは、主な研修の実施概要と感想等を述べる。

①特別支援学校訪問

「障害児教育に対する理解を深め、幅広い知見を得る」という目的で秋田県立比内支援学校を訪問し、授業参観などを行った。実習の見学や講話を通して、発達障害に対する理解とその対応について考えた。普通高校でも「困っている」生徒は多く存在し、その行動を見ると一見「だらしない」、「不適切」と考えてしまいがちだが、その行動の背景に何があるかをしっかり見ることが重要である。そのため、まずは教室の中の多様性を把握し、障害の有無にかかわらず、すべての生徒が学ぶことができる環境を整えていくことが必要だと学んだ。

②PA 研修

PA 研修は、集団づくりの方法を学ぶ、岩城少年自然の家での活動を中心とした研修であった。特に、「コーディネーターとしての教師の役割」を考えさせられる良い機会になった。教師自身が楽しんで活動したり、よく参加者を観察し、どのような支援が必要かを考えたりすることは、今後「個別最適な学び」を実践するうえで非常に重要になっていくのではないかと感じた。

③授業研修

秋田明徳館高校を訪問し、授業見学や生活体験発表会の見学を行った。定時制課程の生徒たちが自ら学ぶ場を求めて授業を受ける姿には、見習うべき部分が多くあった。多様な学習のニーズに応えることの意義や、その難しさについて学ぶことができた。生活体験発表会では、生徒の心の叫びを聞き、教師の発言や行動が一人一人の生徒の人生を大きく左右することを痛感した。教師としての責任感がさらに強くなったように感じた。

## 1. おわりに

社会人生活 1 年目となった今年度は、4 月から悪戦苦闘の毎日だった。そのような中で多くの先生方に支えていただいたことで、ここまで来ることができたのだと改めて実感した。研修の機会だけでなく、日々の職務の中で様々なアドバイスやご指導をいただき、分からないことも相談しやすい雰囲気を作っていただいた。この場を借りて謝意を表したい。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ６・７<br>(本時) | | 文章の比較を通して、共通点を見つけ出している。 | 言葉や文化に対する自分の考えを深めようとしている。 | ○青木保「異文化理解」を読み、共通点を探す。<br>○言葉や文化に対する自分の考えを深める。 |

６　本時の計画

⑴ 本時の目標　「異文化理解」を読み、言葉や文化に対する自分の考えを深める。【読むこと】

⑵ 学習活動と評価

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>５分 | 本時の目標と流れを示し、前回までを振り返る。<br>**「異文化理解」を読み、言葉や文化に対する考えを深める。** | | ② |
| 展開①<br>１０分<br><br>展開③<br>１５分<br><br>展開④<br>１０分<br><br>展開⑤<br>５分 | 「異文化理解」を読み、見つけた共通点をグループで共有し、グループとしての意見をまとめる。<br><br>共通点をクラス全体で共有し、分類・分析する。<br><br>「言葉を異にする人々と共生していくには、どのようなことをしていくべきか」という問いについて考えさせる。<br>注目すべき考えを全体で共有する。 | ・前回提出したメモを基に、思考の方向修正などを行う。<br>・共通していると言える根拠を明確にするようにさせる。<br>・グループの意見を A3 用紙に書かせ、黒板に掲示させる。<br>・意見をまとめ、板書する。<br>・文章の内容は踏まえるが、文章からの引用ではなく、自分の意見を持つことを強調する。<br>・必要に応じて、教師側から解答例を提示する。<br>・板書させる、またはスクリーンに投影する。 | ②<br><br>③<br><br>③<br><br>①③<br><br>記述の確認<br>③ |
| まとめ<br>５分 | 本時の内容を振り返る。 | ・自分の考えがどう変わったかなどを記述させる。 | ③ |

# 国語科（論理国語）学習指導案

**授業者**　青山　竜也
**日　時**　令和５年９月１５日（金）④
**場　所**　２年Ｂ組教室
**教科書**　論理国語（数研出版）

**１　単元名**　言葉に対する考えを深める。(「国境を越える言葉」)

**２　単元目標**
・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解できる。〔知識及び技能（１）ア〕
・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握できる。〔思考力・判断力・表現力等　Ｃ　ア〕
・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養おうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

**３　生徒と単元**　２年Ｂ組は、男子 11 名、女子 17 名の普通科総合進学コースのクラスである。総じて学習には消極的で、国語に対して自信がない生徒が多い。四年制大学から就職まで多様な進路を見据えており、生徒間の結びつきもあまり強くない。そうした生徒たちにも、じっくりと文章を読み、深く考えることで自分の考えや意見を持ち、共有できるような力を育てたい。「国境を越える言葉」は、平易な文章の中に、共生への強い願いが込められている。異文化間コミュニケーションが重要な時代の中で、どのようにお互いを理解していくかという、生徒に考えてほしいテーマを扱った文章である。

**４　単元の評価規準**

| ①　知識・技能 | ②　思考・判断・表現 | ③　主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 | 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 | 言葉についての筆者の考えを興味を持って読み取り、複数の文章を読むことによって自分の考えを深めようとしている。 |

**５　指導と評価の計画**　（７時間）
１～５時間目　「国境を越える言葉」を読解する。
６・７時間目　「異文化理解」（青木保）と比較し、言葉や文化に対する自分の考えを深める。

| 時 | 評価規準 | | | 学習活動 |
|---|---|---|---|---|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| 1 | | 全体の構成を把握し、論理の展開を捉えている。 | | ○全文を通読し、四つの意味段落に分ける。 |
| 2 | 言葉は、文化と深い結びつきがあることを理解している。 | | | ○第一段落を読み、言葉と日常が深く結びつくものであることを確認する。 |
| ３・４ | | 筆者の主張について理解している。 | | ○第二段落を読み、言葉が「国境を越える」という意味について理解する |
| 5 | 「概念」「共生」といった語句の意味について理解している。 | 具体例の部分が主張の根拠となることを把握している。 | | ○第三・四段落を読み、概念の共有が共生を可能にすることを理解する。 |

# 中堅教諭等資質向上研修講座の記録

教諭　石黒　翔之

## １　１年間の秋田県総合教育センター中堅教諭等資質向上研修講座を振り返って

| | |
|---|---|
| Ⅰ期 | ○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略<br>○学校の危機管理<br>○学校組織の一員として①－リーダーシップ－ |
| Ⅱ期 | ○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進 |
| Ⅲ期 | ○いじめの理解と対応<br>○気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解（所属校での自己研修） |
| Ⅳ期 | ○教育活動全体を通じたキャリア教育<br>○学校全体で取り組む情報教育<br>○人間としての在り方生き方を考える道徳教育 |
| Ⅴ期 | ○教育公務員の服務<br>○学校組織の一員として②－キャリアデザイン－<br>○これからの学校教育 |

私が特に印象に残った研修は２つある。１つ目は、Ⅰ期の「学校組織の一員として①－リーダーシップ－」である。学校におけるリーダーシップには４種類があり、必ずしも先頭に立って行動を起こすことだけがリーダーシップではないことを学んだ。場に応じたリーダーシップをうまく組み合わせながら、教育活動を行っていくことが重要である。この時間の演習ではリーダーシップが発揮される場面を考えたが、自分はたくさんのことを教えられる立場にないと思っていたため、４種類のリーダーシップを発揮している場面が、他の先生のものしか思いつかなかった。しかし、周りには自分より経験年数の短い教員も増えており、ペアを組んで仕事をすることも出てきたため、秋田県教職キャリア指標も活用し、強みの部分を活かして積極的にリーダーシップを発揮していきたいと感じた。

２つ目は、Ⅳ期「教育活動全体を通じたキャリア教育」である。すべての教育活動はキャリア教育であることは理解しており、自校のキャリア教育がどのように計画されているかも理解していていたつもりだが、見つめ直すところまでは考えていなかった。今回の研修では大切な視点を４つ教えていただいた。中でも「２指導の手法」にあった、目指す子ども像によって指導方法を工夫するということだ。工夫するためには、それが自分の中にしっかりとイメージがあったり、学校全体の目標として全職員が念頭に置いておいたりすることが大切である。また、時代によって目指す子ども像も変化してくるので、例年通りではいけないと感じた。

## ２ 秋田県高等学校中堅教諭等資質向上研修「授業研修」について

指導案添付

## ６．本時の計画

（１）本時のねらい

正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。

（２）学習活動と評価　**評価の観点：①知識・技能　②思考・判断・表現　③主体的に学習に取り組む態度**

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---|---|---|---|
| 導入（10分） | ・本時の目標を確認する。 | ・本時の目標の提示 | |
| | 正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 | | |
| | 半径が 10cm の円に内接する三角形の辺の長さと正弦の大きさの関係について考察してみよう。 | | |
| | ・プリントに考えをまとめる。 | ・定規や分度器、三角比の表を自由に使って求めさせる。<br>・机間指導し、適宜助言する。 | |
| 展開（30分） | ・考察した結果を共有する。<br>・考察した結果から定理の予想を立てる。 | ・グループで共有する。<br>・b と sinB 、c と sinC にも同様のことがいえることを誘導する。 | |
| | ・プリントで予想を証明する。 | ・角が鋭角、直角、鈍角のときについて穴埋めで証明させる。<br>・生徒を指名し、口頭で答えさせる。 | |
| | ・例題 8、例題 9 を確認する。<br>・問題(プリント)を解く。 | ・例題 8、例題 9 を教員が主導で確認する。<br>・机間指導し、適宜助言する。<br>・生徒を指名して、黒板に解答させる。 | ①<br>**観察**<br>**発表** |
| まとめ（10分） | ・問題(プリント)の解説を通して、今日の振り返りをする。 | ・自己評価、今日の一言を自由に書かせる。 | |

# 第１学年　数学科（数学Ⅰ）学習指導案

実　施　日：令和５年９月５日(火)３校時
対象クラス：秋田高等学校１年Ｂ組教室
指　導　者：石黒　翔之(秋田北鷹高校)
　　川田　　亮(能代科学技術高校)
使用教科書：数学Ⅰ（数研出版）

**１．単 元 名**

第４章　図形と計量　第２節 三角形への応用

**２．単元目標**

（１）正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができるようになる。
（２）図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができるようになる。
（３）粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深める。

**３．単元と生徒**

（１）単元

三角比を定義し，既習の内容を新しい視点より眺め，さらに正弦定理や余弦定理など新たなる関係を見出していく分野である。

（２）生徒観

学習習慣が身に付いていて、成績が良い生徒が多いクラスである。授業では大人しく、教師の問いかけに対しての反応が薄いこともあるが、内容については理解していることが多い。現実の世界の事象を数学的に扱うことで意欲を喚起し、他者と協働して問題解決に向かうようにしたい。

（３）指導観

実測不可能に見えるものの測量が可能となる場面などを利用して，生徒が思考・判断・表現する場面を設定していきたい。

**４．単元の指導計画**

図形と計量（総時数２０時間）

（１）鋭角の三角比　　５時間
（２）三角比の拡張　　５時間
（３）正弦定理と余弦定理　５時間（本時１／５）
（４）図形の計量　　５時間

**５．単元の評価規準**

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・正弦定理や余弦定理について、三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。<br>・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 | ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 | ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 |

## ３　秋田県高等学校中堅教諭等資質向上研修「選択研修」について

研 修 先　サイエンスパーク・能代市子ども館
研修期間　令和５年８月１日（火）、令和５年８月３日（木）～令和５年８月４日（金）
研修成果

能代市子ども館には多様な世代の子どもたちが来館し、幼保小中高の連携について、たくさんの子どもたちとの積極的なふれあいを通して学ぶことができた。館内には、来館者の興味を引き付ける仕掛けがたくさんあった。例えば、月替わりで出されるサイエンスクイズがあり、正解者には抽選で缶バッチが贈られたり、来館者の質問に答えるコーナーがあり、丁寧に職員が返答したりしていた。興味・関心を向上させる工夫はすぐにでも授業や課外学習に取り入れていきたいと考えている。また、数学と理科の教科の融合については、館内のガイドを通じて、特に宇宙全体の現象と数学の関わりを学び、実感することができた。プログラミング研修では、籠にボールをシュートするロボットのプログラミングを行った。今後の小学生に対する講座の見本となるということで、作りやすさやロボットの見栄え、プログラミングのしやすさ等を考慮して行うことができた。また、今後の児童生徒に求められる知識や技術についても体験し学ぶことができたと感じる。自分自身の講座では「魔方陣で遊ぼう」をテーマに様々な世代の人に数学に触れてもらった。講座を考えるうえで、興味関心を引く仕掛けをしたり、誰もがわかりやすく数学に触れられるような工夫を凝らしたりすることができた。結果的には４名だけの参加であったが、一人一人に対して丁寧に説明ができて、有意義な講座にすることができたのではないかと思う。

今回の研修を通して、いかにして児童生徒の興味関心を引き出すか、そして知識・技能や思考・判断表現を育んでいくかの工夫について、多くを学ぶことができた。また、今の子どもたちに求められることについても深く考えることができた。今後の教員生活にぜひ生かしていきたいと考える。

## ４ 秋田県高等学校中堅教諭等資質向上研修「特定課題研究」について

研究テーマ　総合型選抜に対応した進学コースの指導
研究の動機

今年度は 2 年部を担当し、新課程入試の初年度の生徒を指導している。新学習指導要領では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の育成を目指しており、「理数」「総合的な探究の時間」が新設されたほか、各科目の見直しが図られた。それに伴って、大学入試も大きく変更された。共通テストは「情報」が教科として加わり、「国語」「数学②」が問題量増加のため解答時間が 10 分増加している。「外国語」は解答時間の増加はないものの、学習すべき単語の量が増加している。

国立大学では 6 教科 8 科目が原則だが、文理によって異なる。「情報」が加わった上、地歴・公民の選択方法も複雑化しており、注意が必要である。また、数学教員として数学②の試作問題を解いたが、河合塾の分析結果にもあるとおり、現行共通テストと比べ、読む分量が増加しているため、生徒が 70 分で解くのは困難であると感じた。生徒に必要とされる学習量が増えていることは確実である。その中で、今もまだ募集人数で増加傾向にあるのが総合型選抜である。文部科学省の調査では、令和 4 年度入試から令和 5 年度入試にかけて、国立大学では総合型選抜の入学者が 300 名近く、公立大学では 150 名増加している。新課程入試の初年度で高校生が苦闘している中、総合型選抜の価値が高くなってきているのではないかと考え、研究することとした。

研究の概要

本校における国公立大学総合型選抜受験者の過去 3 年間の推移は、令和 2 年度は出願者 8 名・合格者 4 名、令和 3 年度は出願者 3 名・合格者 2 名、令和 4 年度は出願者 4 名・合格者 0 名であった。令和 4 年度には合格者がいなかったが、過去 3 年間で合格率 40%である。受験人数も年によってばらつきがあるが、意欲を示す生徒が増えてきた。2 年生特進クラスでは総合型選抜に積極的な(受験したい・可能であれば受験したい)生徒は、25 名中 15 名で半数を超えた。

本校の総合型選抜に対する主な取り組みについて、次のように、整理・分析をした。

まずはキャリアパスポートである。これはどの高校でも実施されていることではあるが、校内外の学びについて記入することによって、将来の夢と学習のつながりを意識させ、主体的に学ぶ意欲を育成することができる。また、自分はどんな成長を遂げたのかを、振り返って確認することができ、志望理由書を書いたり面接対策をしたりする際にも有効である。本校でも、進路行事だけでなく、様々な行事の事前事後で記入させるようにしている。最初はなかなか書けない生徒も多いが、2 年生にもなってくると、その意義を理解し記入することで、有効的に活用できる生徒も増えてきた。

次に進路行事についてである。進路講話では、1 年生は 11 月に、2 年生は 10 月にベネッセコーポレーションの古川恵伍氏より、新大学入試についての講話をいただいた。また、2 年生は石渡嶺司氏を学校に招き、大学の選択について講話をしていただいた。3 年生は学校祭直後の 6 月に、東進の野村知秀氏から受験の心構えについて講話をいただいた。例年、時期や依頼する業者が決まっていて、業者任せになっていたものを、進路指導部が業者の選定をし、内容もお願いするように、進路指導主事が改善した。また、大手業者だけでなく、大学ジャーナリストからの中からも講師を選定し、講話の後に生徒が個人面談をしていただけるようにした。これらの結果、大学の学部学科の内容や新課程入試について、より多くの情報を得ることができたと感じる。また、個人面談では個に応じたアドバイスも受けることができた。さらに、大学出前講座も実施している。今年度は北海道教育大学と宮城大学から講師をお願いし、模擬講義をしていただいた。進路指導主事が 1・2 年生の特進クラスの担任に希望をとり、生徒の進路希望調査に合